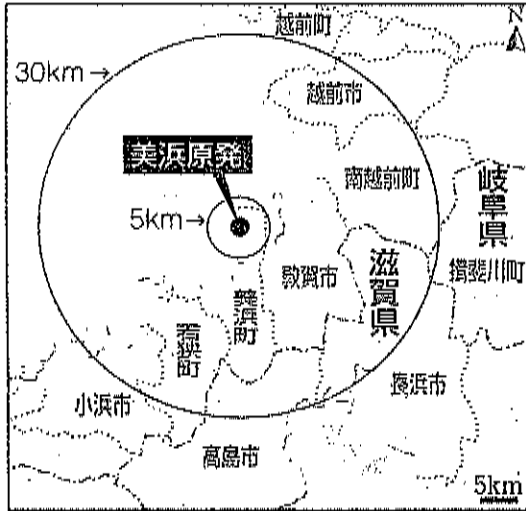


30キロ圏住民 広域避難

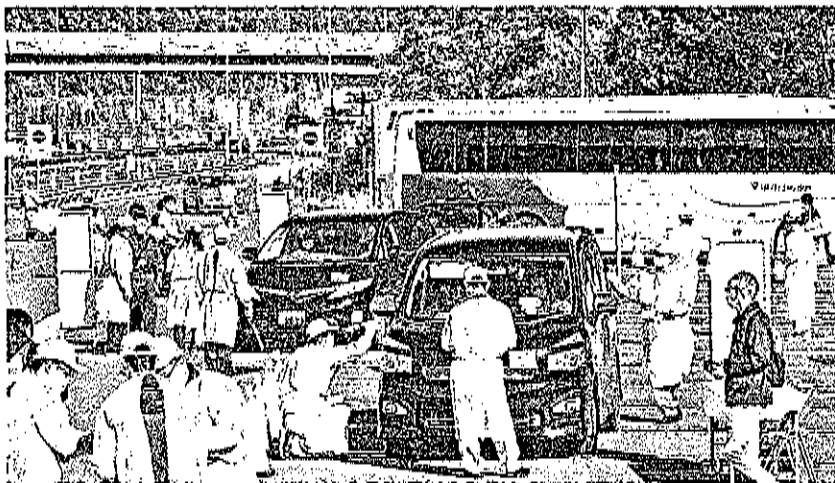
美浜原発 国の防災訓練終了

関西電力美浜原発（美浜町）の事故を想定した国の原子力総合防災訓練は最終日の六日、原発から三十キロ圏内にある福井、滋賀、岐阜の三県の住民による広域避難などを行った。道路の寸断で孤立した地域の住民を第八管区海上保安本部のヘリコプターと大型巡視船を使ってヒストン輸送する訓練は、ヘリの不具合で中止となった。▽関連⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿



初めて高速道路のサービスエリアで行われた訓練で、避難車両のスクリーニングに臨む訓練参加者ら＝6日午前、滋賀県長浜市余呉町の賤ヶ岳サービスエリア上り線で（山田陽撮影）

度6弱の地震で美浜3号機が外部電源を喪失し、原子炉の冷却機能を失う事故が発生したと想定。約百五十



の関係機関や三県の住民ら約九千二百人が参加した。県は、新型コロナウイルス

スの影響で見合わせていた県外避難を三年ぶりに実施。参加者はバスや自家用車で移動し、滋賀県長浜市の北陸自動車道賤ヶ岳サービスエリアなどで放射性物質が付着していないかを調べ

るスクリーニングや除染をした後、兵庫、奈良、石川の三県の避難先に向かった。滋賀県では、高島、長浜の二市の住民が避難所に足を運び、大津市では広域避難した高島市

民の受け入れをした。岐阜県では、掛鈿川町の住民が屋内退避や避難所への避難をした。

訓練後の講評で、内閣府の松下整大臣官房審議官は「避難先が広域にわたるため、多数の自治体の緊密な連携が必要だが、情報の共有・検討はますますできていた」と振り返った。福井県の杉本達治知事は「原子力防災対策の強化充実を今後も図りたい」と述べた。美浜3号機は昨年六月に再稼働し、新規制基準下で国内唯一、運転開始から四十年を超えた原発として稼働している。